

## 骨粗鬆症リエゾンサービスの実際

## リエゾンサービスとは

• **リエゾン**はフランス語で**繋ぎ、連絡係**という意味で、骨粗鬆症リエゾンサービス、骨折リエゾンサービスとは、

**院内・多職種・他施設が連携し骨粗鬆症の予防と改善および骨折防止の取り組みの事**

日本骨粗鬆症学会ではコーディネーターを育成するレクチャー・コースを開催し骨粗鬆症マネージャーの資格認定を行っている

1

2

## FLS(骨折リエゾンサービス) と OLS (骨粗鬆症リエゾンサービス)



## 骨粗鬆症サポーターの皆様へ

### 骨粗鬆症患者の治療継続のサポート

患者がどこに行っても治療が途切れない様にサポートすること

2015年 日本骨粗鬆症学会

**OLS**

骨折リスクの高い患者に対する一次骨折予防・啓発・教育活動

脆弱性骨折患者に対する骨折直後からの二次骨折予防

**FLS**

1999年 Glasgow, UK

治療薬  
食形態  
運動  
転倒予防方法

施設側にも  
届けよう!



日本骨粗鬆症学会誌6:289-290. 2020

3

4



令和4年度診療報酬改定Ⅳ-6  
重症化予防の取組の推進-②

継続的な二次性骨折予防に係る  
評価の新設

算定要件の4.5に表記されている



二次骨折予防  
FLS実践  
マニュアルも  
出ています

以下のステージ1~5を、FLSチームメンバーを主体とし、 リエゾンサービス提供施設にて行う。	
ステージ 1	Identification 《対象患者の特定》
FLSによって治療されるべき脆弱性骨折の患者であることを 特定しFLSチームメンバーに周知させる	
ステージ 2	Investigation 《二次骨折リスクの評価》
FLSによる骨粗鬆症治療対象患者の二次骨折リスクを確実に評価する	
<ul style="list-style-type: none"> <li>骨折後できるだけ早期に評価し、少なくとも骨折後90日以内に、「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015年版」に基づいて評価を行うことが望ましい。評価ツールは画像診断（胸腰椎単純X線、DXAを優先とする）またはFRAAX<sup>®</sup>などリスクアセスメントツールを用いる。DXAを保有しない場合には中核施設との連携が望ましい。</li> <li>脆性骨粗鬆症との鑑別診断（一般血液生化学、Ca、P、25水酸化ビタミンDなど）を行い、必要に応じて専門医との連携を行う。</li> <li>転倒リスク評価を行う。（例：転倒リスク評価表<sup>6</sup>、P7参照）</li> <li>認知機能評価についても行うことが推奨される。（例：MMSE<sup>6</sup>）</li> <li>サルコペニア評価についても行うことが推奨される。（例：アジアワーキンググループ（AWGS）の診断基準<sup>7</sup>、P8参照）</li> <li>ロコモティブシンドローム<sup>8</sup>の評価についても行うことが推奨される。</li> </ul>	
ステージ 3	Initiation 《投薬を含む治療の開始》
FLSによる 骨粗鬆症治療対象患者には投薬を含む治療介入を行う	
<ul style="list-style-type: none"> <li>二次骨折リスクの評価終了後すぐに「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015年版」を中心に、骨折予防に対してエビデンスをもつ薬物治療と転倒予防<sup>10</sup>を基本的介入として行う。</li> </ul>	
ステージ 4	Integration 《患者のフォローアップ》
患者が治療を継続し治療効果を評価するためにフォローアップしていく	
ステージ 5	Information 《患者と医療従事者への教育と情報提供》
脆弱性骨折に関する病識と治療の重要性に対する認識を高める	
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療から介護まで、脆弱性骨折に関わるすべての職種および患者・家族に対して骨粗鬆症に対する知識の共有とFLSの意義について啓発する。</li> <li>患者と医療従事者への教育と情報提供は、ステージ1~4のすべての流れにおいて必要となる。</li> <li>患者に対しては骨粗鬆症の病態と骨折の関連性、骨粗鬆症薬物治療の重要性を教育し、転倒予防と栄養改善の指導を行う。特に骨折の連鎖によって重大な機能障害がもたらされる可能性を強調する。そのために病院内の委員会の設立および退院後の施設間のネットワークの利用が望ましい。</li> <li>多職種協働を学ぶ連携教育や地域行政機関への啓発活動も重要である。</li> </ul>	

## 当院のリエゾンサービス



## ステージ 1 対象患者の特定

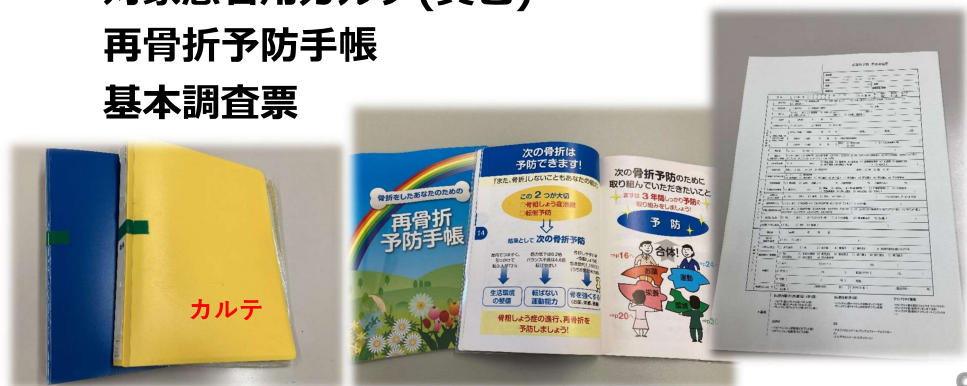
### 当院のリエゾンサービスの対象者

- ・ **大腿骨近位部骨折患者**  
当院で手術した患者  
転院してきた患者  
保存療法患者
- ・ **椎体骨折患者**



# ステージ 1

入院と同時に対象者を特定します  
 医師の指示(疾患名でクラークが**周知**)  
 対象患者用カルテ(黄色)  
 再骨折予防手帳  
 基本調査票



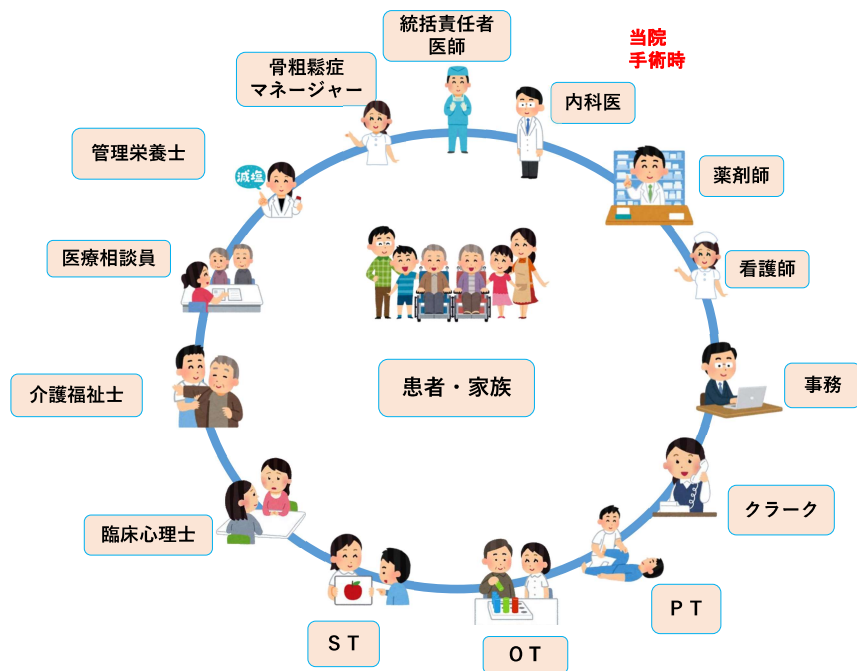
9

# ステージ 1

- 対象患者用カルテを黄色にし、視覚的に対象者がわかる
- 再骨折予防手帳を活用し各職種の担当から患者・家族に説明・指導を行う
- 基本調査票を入院時に記入し、評価・対象患者リストに活用  
 記入 担当看護師・病棟クラーク  
 データ入力 病棟クラーク
- 各病棟師長がカンファレンスの予定表を作成

10

## 再骨折予防サポートチーム



11

# ステージ 2

## 二次骨折リスクの評価 検査の実施・確認

- 胸腰椎単純X線・DXA
- 一般血液生化学 Ca、P、25-OHD
- 転倒リスク評価(転倒転落アセスメントスコア)
- 認知機能評価 (AMTS・MMSE)
- 薬剤の鑑別

12

# 患者情報共有の場

## カンファレンスの様子



- |            |        |
|------------|--------|
| ADLの状況     | 疼痛の有無  |
| 認知症の有無     | 睡眠状況   |
| 栄養状態       | 退院の時期  |
| 退院先        | かかりつけ医 |
| 受診頻度       | 受診方法   |
| 使用薬剤       | 服薬管理者  |
| 家屋の状況      | 家族状況   |
| 介護保険の有無    |        |
| 退院後の利用サービス |        |

## 継続管理ミーティング



- 検査・投薬の確認
- かかりつけ医・退院先
- 算定状況と算定依頼の医師からの電話

\* 二次性骨折予防継続管理料の患者さんのみ

# ステージ3

## 投薬を含む治療の介入

- 薬物治療 マニュアル・患者情報により薬剤選択
- 栄養指導 管理栄養士
- 運動指導 理学療法士
- 転倒予防指導 作業療法士

# 治療依頼と採用薬剤の確認

## ・2017年7月から

かかりつけ病院・クリニックに治療依頼  
採用している薬剤を確認し医療相談室・地域連携室の共有  
ファイルで情報共有し入院中に処方、副作用の確認・退院



骨粗鬆症薬病院・クリニック採用薬 一覧表					
2019年2月26日					
病院・クリニック名	場所	薬剤採用状況	往診の有無	電話番号	確認日

患者さんが安心して治療継続できるように支援

29市区町 216施設  
2023年4月1日現在

# 再骨折予防指導(患者教育の様子)



退院後に継続出来る事を  
患者と共に考え入院中に習慣化させる





## ステージ4

### 患者のフォローアップ

・入院から120日・365日フォローアップ

大腿骨近位部骨折 年2回(120日目・365日目)

椎体骨折 年1回(365日目)

電話・FAX・ICTなどの活用

地域連携室看護師・臨床心理士でフォローアップ  
当院作成の聞き取り調査票使用開始

17



## ステージ5

### 患者と医療従事者への教育と情報提供

入院中に患者・家族に  
骨粗鬆症治療の重要性と治療方法を説明

治療の必要性・再骨折予防手帳の使用方法  
薬剤の必要 栄養指導 食形態  
運動指導 転倒予防指導

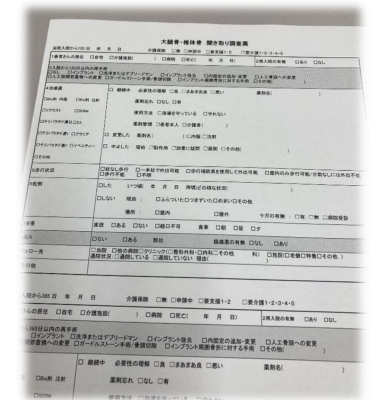
19



## 新しい聞き取り調査票

### 項目

住居 介護度  
再入院の有無 再手術の有無  
治療薬と継続状況  
歩行状況  
転倒の有無と転倒状況  
栄養状況  
痛みの有無  
フォロー先



18



## ステージ5

### 患者を指導するスタッフの育成

近隣施設・ケアマネージャークリニック等にも  
研修会参加をうながす

新入職者教育 春に1回(5・6月頃開催)  
各部署からの依頼に対応(不定期開催)  
サポーター研修会参加 (2021年～年1回)  
各研修会参加 各部署へ参加依頼を要請

20

# 医療介護スタッフへの 教育・情報提供の様子

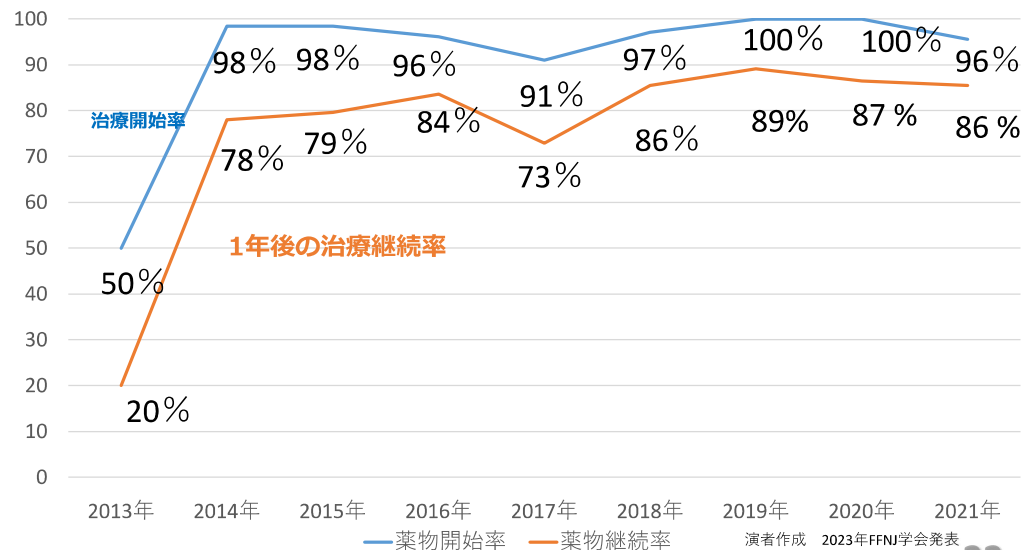


サポーター研修会



院内研修会

# 大腿骨近位部骨折患者に対し FLS活動開始の推移



# 退院後1年間の再骨折数



- 退院後1年追跡した患者 534名
- 亡くなった患者 55名
- 連絡が取れなくなった患者 4名
- 再骨折した患者数 **41名 8.6%**



(肋骨・椎体・骨盤・上腕骨、橈骨、脛骨・踵・手指等)

そのうち大腿骨近位部骨折患者 **8名 1.7%**

# 骨粗鬆症サポーターの役割



## 患者の治療開始と継続をサポートする事

- 患者・家族に治療の必要性を説明
- 治療が途切れない様に患者の  
関係施設やケアマネージャーと情報共有

